

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



うちもりえつこ
竹富島出身の内盛總子さんは、東集落の踊りの師匠を長年務めたり、かつて多くの島人が台湾へと仕事を求めて渡った時代にあっては島に留まり織物にたずさわってきたりと、島の芸能や文化に多大な貢献をしてきた人だ。

東集落から私が暮らす仲筋集落へと、總子さんがお友達の市村美代子さんに会いに来ているところをよく見かけた。2人は美代子さんの家の前あたりでよくおしゃべりに花を咲かせていた。彼女たちのその楽しそうな姿を見かける度に、まるで女学生が2人放課後のおしゃべりが止まらず、お互に「バイバイ」をいうタイミングを逃してしまっているかのような光景だなと思っていた。

集落内を歩いている私を見かけると「あら、あきちゃん！」と軽やかに声をかけてくれた。それもまた、女学生が帰り道でばったり出会い声をかけ合うみたいな雰囲気だった。

少し前のこと、ゆがふ館で機織りをしている總子さんから、若かりしころの話などを聞いた。その乙女な口調としなやかな立ち居振る舞いからは想像ができないようなハードな体験もあった。

踊りの師匠も、織物も、總子さんだからこそできることで、それはごく自然に紡ぎだされた彼女の人生のプロジェクトみたいなもの。

「ツートントン」という機織りの音は、「あんなこと
もあったね、ツートントン こんなこともあったね、
ツートントン」と、まるで總子さんの話に相槌をう
っているようだった。

水野暁子　みづのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。